



▲今回お世話になった、高知大学地域協働学部の1回生4人。ワークショップのお手伝いとして、進行役や書記係を行い、参加者と交流しました【地域協働学部とは】…今年新たに創設された学部で、地域とともに課題解決などに取り組み、卒業後は、地域社会の様々な分野において、即戦力として活躍できる人材を送り出すことを目的としている



▲緊張がほぐれ笑顔を見せる参加者たち

# まちづくり 第1歩

市内の自治会や協議会の方が集まってのワークショップ。8班に分かれ班ごとに与えられたテーマに沿って話し合いが行われました【ワークショップとは】…参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイル

## 希望を描き将来へ託す

講師からは、人口減少が着実に進むなか、将来への希望をいかに保つか、その糸口について話がありました。国の施策「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を引き合いに出しながら「死には、寿命のほかに、労働を終えた社会死、健康面からの生活死という言葉があるが、実際の地域の人口減少への歯止めは難しくても、生活を楽しむ年齢は引き上げられるのではないかと「地域の存続のためには地域らしさを高めること。つまり、地域を良くしよう」としている皆

講演②「2060年の香南市を考える！～これからの仕掛け地域存続ビジョン～」

講師 受田 浩之



高知大学副学長  
地域協働学部教授  
受田浩之さん

さんが、地域への誇りや将来への希望を持つこと。そしてその実現に向けて行動する仲間が増えれば、希望を後世につないでいけるのではないかと提唱されました。参加者は、演題から遠い将来のことと最初はイメージされていましたが、その根底には、全ての地域住民が健康であり続けることが重要で、その健康づくりなどの活動を含め自治会等が果たすべき役割の大きさを再認識していました。

# あなたにできること!

お問い合わせ  
地域支援課  
☎57-8503

『将来の自治会、どう担っていくのか!～自治会の悩みを共有し、一緒に考えよう～』

10月17日(土)のいちふれあいセンターで、今回初めての取り組みとして、自治会等の役員を対象にしたワークショップ方式の「香南市まちづくりフォーラム」を開催しました。

現在、設立され各地域で活動されている69自治会、10協議会のうち、36団体の役員80人と高知大学生や市職員を加えた約100人が、自治会同士の連携や共通の課題解決策を考えました。



ワークショップでの皆さんの意見を一部紹介します。さて、あなたにできることは?

### 後釜をつくろう

みんなが楽しんで役員をする

防災訓練に全世帯参加

核家族を減らして  
大家族を増やしたい

家庭に負担が掛からない  
環境づくり

自治会の周知事項は  
できるだけ手渡し

地域のリーダー同士の交流を  
年数回行う

楽しんで汗をかく

自ら進んで役員になる

イベントのマニュアルづくり

## 理想の姿

活動に全員参加し一緒に考える

## アクション

呑みニケーションで親睦を深める

## 私カバできること

近所の人を誘い家族で参加

### 参加者を増やそう

地域の人全員の顔と名前を  
賞えている

年配の方が若い世代を  
フォローできる

3世代で参加する

公務員OB、OGは  
まちづくりに絶対に関わる

地域の寄り合いに  
親が出るのをやめ子どもに託す

自治会の新聞を発行

絶対に愚痴を言わない

人に喜ばれる料理を作る

フェイスブックなどで地域外へ周知

## 共通

の悩みから意気投合し自信につながった

『参加者を増やそう』では、自治会事業の活性化について『事業のマンネリ化、参加者集めが大変』などの悩みを解消するためどんなことをすべきかを話し合いました。参加者は、イベントなどの満足度の向上や周知方法、地域の絆を高める方法など、様々な切り口で理想の姿を語り、サポートがあればできること、今すぐできること(アクション)などの具体策を各班で発表されました。

『後釜をつくろう』では「人材不足で役員の交代ができない、若い人が担ってくれないなど今後の組織運営への対策を考え、その人材をどこで確保するのかまで掘り下げた話し合いました。参加者は、イベント参加者を増やし世代間交流を今以上に進める、役割を分担するなどのほか、子どもたちを地域内の行事に巻き込みながらふるさとへの愛情を高めるなど長期的な考え方も発表されました。

## 一歩

を踏み出すと未来が変わる

講師からは「地域の方々を抱える悩みはこの地域でも同じようにある。しかし誰かがやってくれるのを待っているのは、機を逸してしまつ。すぐにでも住民一人ひとりが主役となり、地域に主体的に関わるのが大事」という視点を全国の事例を交えながら紹介されました。また「一歩を踏み出すことにより未来を変えられる」とにかく自分たちが楽しくなければ周りを巻き込むことはできない」という言葉

に、参加者は、自治会などを設立した際の苦労などを思い出しながらも「苦労があっても達成感があるから続けてこられた」「自治会はつくて終わりではなく歩み続けなければ」との声が聞かれ、自治会などにかかわる者として今後地域を引っ張っていくかを引っぱる者として今後地域を引っ張っていくかを引っぱる者として今後地域を引っ張っていくかを引っぱる者として今後地域を引っ張っていくか

ワークショップ テーマ ①参加者を増やそう ②後釜を作ろう



高知大学  
地域協働学部講師  
須藤 順さん

講演①「人がつながる「地域コミュニティ」 講師 須藤 順

## まとめ

同じ時間を過ごす中で、緊張もほぐれ仲間意識が高まり「いい意味で期待を裏切られたフォーラムだった」との嬉しい声が多くありました。みなさんも自治会等の役員任せにせず、地域のことを一緒に考えていきましょう。